

2017年3月の言葉

今月の私の話は、「笑い」に関連した話しをしようと思っています。

「笑」の古字は「咲」。もともと同じ意味で使われていました。花が笑うのは、花が咲く事を意味し「花笑み」といい、花が咲くように笑う時も、こういうようになりました。

「笑」の代りに「咲」という字を書くこともあったようです。

「咲」はもともと、人が笑う事を表す漢字。それを花が咲くという意味で使い出したのが日本人。

花が咲く心も、人が笑う心も同じことでしょう。

花に関する仕事をしている人は、「笑い」の製造人です。

商売は笑売にもつながります。

言葉には「言霊」（ことだま）とあって魂があると信じられています。

- ・ 良い言葉は、良い心を育てる。
- ・ 苦い言葉は、あとで甘くなる。
- ・ 言葉に気をつけなさい。それはいつか行動になるから。

この3つは昨年平成28年「天台こよみ」から引用させていただきました。

ここで7月に関して山下景子著「美人のいろは」から引用させていただきます
1年365日それぞれの日に、季節に合わせて名前がつけて有ります。

例えば1月1日は「初春」2日は「おめでとう」3日は「おとしだま」という様に、ついています

7月は「文月」とも言いますが、七夕様にちなんで「愛逢月（めであいづき）」ロマンチックな出合いを予感させるこの言葉。

7月2日は1年の折り返し地点で「峠」

7月3日は「咲初小藤（さきそめこふじ）」7月の誕生色は、梅雨明けの夏の光に輝いた紫露草（むらさきつゆくさ）の淡い紫です。

1日でしぼんでも、小さい蕾をたくさん用意してつぎつぎに咲かせていきます。何時も明日の蕾を持っている……。それが輝いて見える秘訣でしょう。

きょう7月27日は、「敵役（かたきやく）」

もう片一方の人と言う意味で、昔は結婚相手の事を「かたき」といっていたくらいです。「敵」は、正面から向き合うと言う意味の字から来ています。

正面から向き合えるのは、自分とつりあった相手。もともとは、自分と対等な相手ということで、自分に向かったり、害を与えたりすると言う意味はありま

せんでした。自分と対等な相手だから、腹も立つでしょう。でも、あなたを一番成長させてくれるのは、そんな相手です。

次に伝え方で、にこやかに、笑って良い返事がもらえる方法があります。

きょうはそんな事例を書かせていただきます。

例えば好きな人がいるとします。

あなたに少しも興味がないとき、何と言ってデートに誘いますか？

「デートして下さい」これでは断られる確率が高いです。しかし言葉次第で結果を変える事が出来ます。

「驚くほど美味しいパスタの店があるけど、行かない？」相手は行っても良いと思う確率が、ぐんと上がる言葉です。

これには、下調べが肝心です。彼女の好物を2, 3点は、調べておく必要があります。

2, 3点調べられたらもっと確率の上がる方法があります。

1点だけより「驚くほど美味しいパスタの店と、とびっきり評判のカレーやさんと、どちらがいい」と2者択一の方が、こっちがいい、という比較は簡単に出来る。また、相手の好きな物なので、なお選びやすい。

車でお客様の家へ行く途中、お客様の奥様が誕生日という事を思い出し、花屋さんでアルジの花を買おと、花屋さんに入りました。

注文すると作り置きが無いので、「10分ほどお待ち下さい」とのこと、急いでいるので、隣のケーキ屋さんにしました。

このとき、花屋さんで「今すぐ新鮮な花で、出来上がりのアルジをお持ちいただけますので、10分ほどお待ち下さい」といわれれば、心は大きく動かされたと思います。

次に、よく公園などで「芝生に入らないで下さい」と書いてあります。

芝生に入って写真を撮ろうとした途端、係りの人から怖い顔をして「看板に書いてあるでしょう」と言われたことはありませんか？

気持ちは良いことありませんね！！

「芝生に入ると、農薬の臭いが付きます」と書いてあると入る人は皆無だと思えます。

また、住宅街で「チカンに、注意！！」と看板やポスターが掲示板に張られていても、ほとんど効果は無いそうです。

しかし、「住民の皆様のご協力で、チカンを逮捕、出来ました。ありがとうございます

います」と書くと、チカンが無くなったそうです。
以上は「伝え方が9割」佐々木圭一著からの引用です。

学校の園芸の授業のお手伝いをしている時、教室で生徒たちと一緒に授業を受けて、教室を出て、実技にうつる時、生徒たちに、例えば、苗の移植の時、教室で今習ったことなのに何故出来ないのかと、直ぐに「カッ」となり大きな声で注意をしていたのですが、その都度帰ってから上手く教える方法がないか？例えば、苗の移植の時1人1人やるのが決まり、円を組んで右回りに苗を移植していくと、スムーズに出来上がるのです。しかし、最初のうちは円を組まずに他のグループに行ったり、土で遊ぶ子もいたりで、ついつい大きな声を出していたのです。「若者怒るな！！自分の来た道。年寄り笑うな！！自分の行く道」とこんな諺もありました。

また、山本五十六の有名な言葉「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、褒めてやらねば、人は動かじ」この言葉のように、最初に自分から進んで、教室で、先生に習ったように、生徒に決められた順番に円陣をつくり、その時に手順を分かりやすく、一人一人に説明をする、この方法ですと、かなり時間を取るようですが、こうすることによって流れもスムーズになり出来上がりも美しく、最終的には時間も早く出来ていました。この方法になれると、ゆとりが出来て笑顔が生まれます。物事考えようと、やり方次第で顔つきが変わります、

「そこに美しい物があるから、美しいのではなく、美しいと思う心があるから、美しいのだ」といいます。

「美しいという言葉を知らなければ、美しいと思うことさえ出来ません」

「心は、言葉を通して育つものです」

笑うと言うことも、一緒だと思いませんか？

最後に、大事なものは、顔でなく、顔つきです。

2017年2月25日

西井 忠義